大学の図書館 Vol.27 No.8 pp.166-168

ラーニング・コモンズは荒野をめざす？

三角 太郎

言葉はパっと広がったが実態はよくわからない、「ラーニング・コモンズ」には、そんな先物買い感が漂っている。思えばリテラシーやリポジトリも言葉が先行して、最初はなにがなんだかわからなくて、気づくと過半の大学図書館で定着していた。ややこしいのはこの三つ、コンセプトはまったく違うのに人間が重なっている気がする。それもダイトケン率が高い気がするのは気のせいだろうか？*1

ぼくが本格的につきあいはじめたのは2008年4月、つまり今春からである。4月に宇部から山形に移り、中央館の運用チーフになった。そこにトップダウンで（理事命令！）閲覧室改善ミッションが振ってきて頭を抱える（現場からあがった要求ではない）。で、いい機会なんで、知り合いに"今流行ってるらしいラーニング・コモンズについて何か知ってる？"と聞いてまわったのだが、この突発的流行が全国で同時多発的に起きていることがわかってきて、かつ、みんなも疑問を抱いていることもわかってきた。まとめると

１）先行例を読んでも実態がピンとこない。
２）アメリカの例を日本に輸入しても機能するとは思えない
３）図書館で運用する理由がわからない.

上記に回答することが本稿の目的ではない。そもそも答えはまだない。ぼくが思うに、これからはじめるのは「実験」である。どうやったら上手くいくかどうかわからないし、何をもって上手くいったと言うかもわからない。

それでまぁ6月のCSI報告交流会の帰りに先行の0大図書館にラーニングコモンズ視察に行ってきたわけだ。感想は一言でいうと「えっ？！」拍子抜けした。こう書くと語弊を招く可能性が極めて高いが、あえて書くと、「ラーニング・コモンズ」と名付けられたスペースには新しさを感じなかった。どこと比べてかと言うと、前の前の職場のY大工学部図書館だ。2005年時点で利用者用PCが60台、課金プリンターもスキャナもあって、常時ではないが大学院TAも勤務。閲覧席の大半に情報コンセント、無線LANも提供。こう書くと自慢みたいだが、ぼくが導入したんでない。*2 今にして思うと、あれはラーニング・コモンズだったのか？そう考えると既にラーニング・コモンズ的サービスを提供してる図書館幾つも思い浮かぶし、他にも多数あるのでは？名前をつけるのは重要だ、目標の明確化につながる。既存サービスを整理して思いきって宣言してしまうのも手か？*3

さて前掲の米澤(2006)では、図書館に今後、求められるものとして、下記を挙げている。

・移動可能なパーティションなどによるフレキシブルな空間
・グループ学習室，グループ･ワークステーション，プレゼンテーション室などの共同作業向きの場所
・カフェやラウンジなどの社交的な施設

ぼくはこれを

複数でワイワイと学習できるスペース！

と言い換えている。しかしながら、グループ学習室は機能すると思うが（既設の館は多いし、機能もしている）フレキシブルな空間や社交的な施設が日本で機能するかは疑問だ。アメリカはディスカッション文化で、食堂等で初対面でたまたま相席してもすぐに会話が弾む、という話を聞く。が、日本でそれはありえないし、フレキシブルな空間が必要かは疑問である。日本で本気で機能させようと思うのなら

・サークルとかゼミとか既に形成されているコミュニティにスペースを積極的に提供

・セミナーとか講座とかコミュニティ形成を促すイベントを積極的に展開
・情報交換、物々交換、アルバイト情報、イベント情報、ともかく何でも、そこにきたら何かがあるという場の形成
・SNS 等のバーチャルなコミュニティと連携
といった＋αを積極的に展開しなければ、意図しているコミュニケーションスペースには育っていかないだろうと考えている。*4

その他、設備についてはネット環境は当然としても、プリンター、プロジェクタ、スキャナは必要だ。特に課金プリンターは必須である。マルチメディア編集用マシーンも何台か用意しておきたい。サポートスタッフとして「TA」も置きたい。*5

紙媒体の資料としては
・「図解雑学シリーズ」等の入門書
・レポート、エントリーシート対策等のハウツーもの
・情報誌、広報誌
あたりも準備しておくといいだろう。

施設面で是非とも考えておきたいのは「トイレ」と「冷房」である。

最後に"なぜ図書館で運用？"と言う疑問だが、いろいろ意見を聞いたけれど結論は

図書館である必然的理由はない！

こう言ってしまうと身も蓋もないのだが、そもそも研究室の学生部屋は、十二分にラーニング・コモンズだし、教務や情報処理センターでも運用は可能だ。実際、本学でもそういう学生部屋が各学部にある。なぜ図書館が手を挙げるのか？これは答えるのは難しくて、そして何よりも本質的な問題だ。ただ、これは贔屓目かもしれないけれど、図書館員が一番適しているとは思う。と言うのは、図書館員は業務を超えて過剰に頑張ってしまう性質があって、でなければリテラシーもリポジトリも今のようには定着しなかったろう。しかし図書館だけでも上手くいかないだろう。McMullen（2008）は、こう書いている。

Identifying and working with partners early in the planning process helps to move away from a library-centric approa ch and think more holistically about thespaces and the services that support the university's mission and vision. *6

たとえば山形大のミッションは"何よりも学生を大切にして"である。図書館の事業として考えるのでなく、"何よりも学生を大切"に考えて、他の部署との連携をととっていかないと、すぐに行きづまってしまうだろう。
しかし、その先に待っているものは何だろうか？本稿をまとめているうちに Learning Commons 論でなく Learning Center 論がまずは必要じゃないかと言う気がしてきた。Library Center は Learning Center となりうるのか、それが根本命題では？そして、その時 libraryan は？さて…

*1　助かってます！！！
*2　センターの演習室一つ分をまるごともらったが、当初は押しつけられた、という思いが強かった。センターとしては
・図書館のほうが開館時間が長い
・FAQ は図書館が答えてくれる
・運用も図書館がやってくれる
とメリットがある。図書館側としても
・費用は図書館側が負担しなくてもいい
・入館者数は明らかに増した
交渉すると意外と上手く運ぶかもしれない。レンタル台数を増やすのは困難でも、移設なら引越し費用ですむ。ただし図書館にも覚悟が必要だ。ぼくは移設直後に赴任して担当になって、運用ノウハウがないからエライ目にあった。要するに演習室管理を図書館が肩代わりするわけで、かつ人的な措置は望めなかった。勉強にはなったけどね。。。
*3　ラーニング・コモンズという名前がいいとは思わない、長すぎる。ネットカフェがネ

カフェになったように、"ランコモ"とか"らこもん"で通じるくらいにならなければ。
*4　東北大吉植氏とのディスカッションで日本人の基本エートスにあうのは
'ラーニング・コモンズ＝
ネカフェ＋マンガ喫茶＋メイドさん'モデル
ではないか？という結論になった。もちろん最初は冗談だったのだが
　ネカフェ＝PC スペース
　マンガ喫茶＝個人ブース＋ライトな資料
　メイドさん＝サービススタッフ
と考えると、このモデルいい線いってるかも。
*5　TA とは三年つきあったが、情報処理センターからの派遣なので命令権は図書館にはなかった。にもかかわらず、出勤管理や技術指導のかなりが図書館にきてしまった。工学部大学院生でも学科によってスキルに大きな差があった。最初は「これも学生教育！」と思って育てる覚悟がいる。そしてそれは図書館員自身の教育でもある。
*6　この論文は一読をお薦めする。読むと気が重くなる。ここでラーニング・コモンズの基本要素として挙げているのが
computer workstation clusters、service desk、collaborative learning spaces、presentation support centers、instructional technology centers for faculty development、electronic classrooms、writing centers and other academic support units
そこまでしなきゃならんのか！これはもう図書館でなく学習支援センターだ。しかしアメリカの流れが少し後れて輸入されてきた歴史を考えると、これが将来要求される姿か？
（参考文献）
米澤誠 "インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援"カレントアウェアネス No.289 2006
　http://current.ndl.go.jp/ca1603
McMullen,S. "US Academic Libraries: Today's Learning Commons Model" PEB Exchange, Programmme on Education Building, 2008, OECD Publishing
　doi: 10.1787/245354858154
（みすみ・たろう/山形大学附属図書館）